

に世に現われるのだが、如来・仏の、その唯一つの仕事、大いなる仕事とは、一体、何か。

それは、生きとし生けるものたちを、如来・仏の智慧と見解とに触れさせるために、如来・勝れた人・正しくあますところなくさとった人は、世に現われるのである。

生きとし生けるものたちに、如来・仏の智慧と見解とを示さんために、如来・勝れた人・正しくあますところなくさとった人は、世に現われるのである。

生きとし生けるものたちを、如来・仏の智慧と見解とに入らせるために、如来・勝れた人・正しくあますところなくさとった人は、世に現われるのである。

生きとし生けるものたちに、如来・仏の智慧と見解とに目覚めさせるために、如来・勝れた人・正しくあますところなくさとった人は、世に現われるのである。

生きとし生けるものたちを、如来・仏の智慧と見解への道に踏み入れさせるために、如来・勝れた人・正しくあますところなくさとった人は、世に現われるのである。

舍利弗よ。

これが、すなわち、如来・仏の、唯一つのなされねばならぬ、なされねばならぬ、大いなる仕事であり、世に現われる、唯一つの

所以である。

そのようなわけで、舍利弗よ、如来・仏の、唯一つの、なされねばならぬ、なされねばならぬ、大いなる仕事を、如来・仏は、実行する。

すなわち、舍利弗よ、如来・仏の智慧と見解とに触れさせる者、それは、われ・釈迦牟尼仏である。如来の智慧と見解とを示す者、それは、われ・釈迦牟尼仏である。如来・仏の智慧と見解とに入

らせる者、それは、われ・釈迦牟尼仏である。如来・仏の智慧と見解とに目覚めさせる者、それは、われ・釈迦牟尼仏である。如来・仏の智慧と見解への道に踏み入れさせる者、それは、われ・釈迦牟尼仏である。

舍利弗よ。

われ・釈迦牟尼仏は、唯一つの「乗りもの」に思いを託し、生きとし生けるもののために、法を、説く。

この「乗りもの」こそが、仏陀・目覚めた者の「乗りもの」なのである。

舍利弗よ。

この「乗りもの」以外に、二つも三つも、「乗りもの」など、ありはしない。

舍利弗よ。

これは、十方世界、すなわち四方、八方、上下、そのありとあるところにおける、変わらぬ理なのである。

つまり、舍利弗よ、過去の世、十方の世界に、はかり知れぬ、数えきれぬ、如来・勝れた人・正しくあますところなくさとった人たちが居られた。多くの人がこのために、幸せをもたらす存在として。世の中を憂え、群れ居る神がみや人間たちの役に立ち、ためになり、幸せをもたらす存在として。

さまざまな志を持った、さまざまな心根と目論とを持った、生きとし生けるものたちの考えを知り、手にしたさまざまな教説、くさぐさの因と縁、事例、論拠、言葉、方法を駆使して、法を説かれたのであるが、舍利弗よ、その仏・尊い人たちも、すべて、唯一つの「乗りもの」に託して、生きとし生けるものたちのために、法を説かれたのである。

すなわち、一切智者の智を、最終目標とする、これが、仏陀の「乗りもの」である。

そして、仏陀の「乗りもの」こそが、すなわち、生きとし生けるものたちに、如来の智慧と見解とに触れさせるものであり、如来の智慧と見解とを示すものであり、如来の智慧と見解とに入らせるものであり、如来の智慧と見解とに目覚めさせるものであり、如来の智慧と見解への道に踏み入れさせるものに他ならない。

舍利弗よ。こうした過ぎし世の、如来・勝れた人・正しくあますところなくさとった人たちのもとで、その法を聞いた、すべての生きとし生けるものたちも、また、無上のさとりを得たのであった。

るものであり、如来の智慧と見解とに目覚めさせるものであり、如来の智慧と見解への道に踏み入れさせるものに他ならない。

舍利弗よ。

未来の世、十方の世界に、はかり知れぬ、数えきれぬ、如来・勝れた人・正しくあますところなくさとった人たちが、多くの人がこのために、幸せをもたらす存在として、世の中を憂え、群れ居る神がみや人間たちの役に立ち、ためになり、幸せをもたらす存在として、居られるであろう。

さまざまな志を持った、さまざまな心根と目論とを持った、生きとし生けるものたちの考えを知り、手にしたさまざまな教説、くさぐさの因と縁、事例、論拠、言葉、方法を駆使して、法を説かれるであろうが、舍利弗よ、その仏・尊い人たちも、また、すべて、唯一つの「乗りもの」に託して、生きとし生けるものたちのために、法を説かれるであろう。

すなわち、一切智者の智を、最終目標とする、仏陀の「乗りもの」

のである。

仏陀の「乗りもの」こそが、すなわち、生きとし生けるものたちに、如来の智慧と見解とに触れさせるものであり、如来の智慧と見解とを示すものであり、如来の智慧と見解とに入らせるものであり、如来の智慧と見解とに目覚めさせるものであり、如来の智慧と見解への道に踏み入らせるものに他ならない。

舍利弗よ。このような、来たるべき世の、如来・勝れた人・正しくあますところなくさとした人たちのもとで、生きとし生けるものたちが、その法を聞くであろうが、彼らもまた、すべて、無上のさとりを得るであろう。

舍利弗よ。

いまの現在、十方の世界に、はかり知れぬ、数えきれぬ、如来・勝れた人・正しくあますところなくさとした人たちが、居り、暮らし、過ごしておられる。

多くの人びとのためになり、幸せをもたらす存在として、世の中を憂え、群れ居る神がみや人間たちの役に立ち、ためになり、幸せのために、法を説いておられる。

さまざまな志を持った、さまざまな心根と目論とを持った、生きとし生けるものたちの考えを知り、手にしたさまざまな教説、くさぐさの因と縁、事例、論拠、言葉、方法を駆使して、法を説

いておられるのだが、舍利弗よ、そのすべての仏・尊い人たちも、また、唯一つの「乗りもの」に託して、生きとし生けるものたちのために、法を説いておられるのである。

すなわち、一切智者の智を、最終目標とする、仏陀の「乗りもの」である。

仏陀の「乗りもの」こそが、すなわち、生きとし生けるものたちに、如来の智慧と見解とに触れさせるものであり、如来の智慧と見解とを示すものであり、如来の智慧と見解とに入らせるものであり、如来の智慧と見解とに目覚めさせるものであり、如来の智慧と見解への道に踏み入らせるものに他ならない。

舍利弗よ。現在の、如来・勝れた人・正しくあますところなくさとした人たちのもとで、その法を聞く、生きとし生けるものたちすべてが、無上のさとりを得るであろう。

そして、舍利弗よ。

いまこそ、如来・勝れた人・正しくあますところなくさとした人、われ・釈迦牟尼仏も、また、多くの人びとのためになり、幸せをもたらす存在として、世の中を憂え、群れ居る神がみや人間たちの役に立ち、ためになり、幸せのために、法を説く。

さまざまな志を持った、さまざまな心根と目論とを持った、生

きとし生けるものたちの考えを知り、この手の中にあるさまざまな教説、くさぐさの因と縁、事例、論拠、言葉、方法を駆使して、われ・釈迦牟尼仏も、また、舍利弗よ、唯一つの「乗りもの」に託して、生きとし生けるものたちに、法を説く。

すなわち、一切智者の智を、最終目標とする、仏陀の「乗りもの」である。

仏陀の「乗りもの」こそが、すなわち、生きとし生けるものたちに、如来の智慧と見解とに触れさせるものであり、如来の智慧と見解とを示すものであり、如来の智慧と見解とに入らせるものであり、如来の智慧と見解とに目覚めさせるものであり、如来の智慧と見解への道に踏み入らせるものに他ならない。

いま、われ・釈迦牟尼仏の、この法を聞いている生きとし生けるものたちも、また、すべて、無上のさとりを得るであろう。

舍利弗よ。

このような具合であるから、また、このようなやり方であるので、知るがよい。十方の如何なる世にも、第二の「乗りもの」など、かりそめにも、無いのだということを。まして、第三の「乗りもの」にいたっては、言うまでもない。

さて、そういうことなのだが、舍利弗よ。

時代の風潮の混乱の窮まるるとき、如来・勝れた人・正しくあますところなくさとした人は、現われる。

生きとし生けるものたちが、覇氣を失い、放埒を窮め、思想は退廃し、生命の力が衰えるとき、如来は、現われる。

舍利弗よ。

昏迷と激動の中にあつて、生きとし生けるものの多くは、欲しがる心のみ深く、善根など、皆無に等しい。

舍利弗よ。

そういうとき、如来・勝れた人・正しくあますところなくさと

つた人は、一つのやり方として、唯一つの仏の「乗りもの」を、三つの「乗りもの」に置き換えて、説くのである。

さあ、そこで、

舍利弗よ。仏弟子であれ、阿羅漢であれ、独覚であれ、如来・仏が、その「乗りもの」に触れさせようという、その行為に耳を貸さない者、その行為に与らない者、その行為に気がつかない者、舍利弗よ、そういう者たちは、如来の弟子ではないということを知らなくてはならない。阿羅漢でもなければ、独覚でもないということを、知らなければならぬ。

また、さらに、舍利弗よ。

出家の男性修行者や女性修行者で、阿羅漢になることが目標で

あると定め、無上のさとりの誓願を起こすことなく、『わたしは仏の乗りものには関係無い』と言い、『わたしは最終的に般涅槃の境地に行き着いているのだ』と言うならば、舍利弗よ、そういう者をこそ、増上慢であると、知らなくてはならない。

どういふことかという、舍利弗よ。

欲望が消え失せた阿羅漢であつて、しかも如来の面前にあつて、この法を聞いてゐる、それなのに如来を信じない、そのような道理に合はぬ比丘など、居るはずがない。如来が入滅され、この世に居られないのなら別であるが。

つまり、舍利弗よ、如来・仏が般涅槃された、そのようなとき、そういう場合に、彼ら声聞たちが、これらの經典を保持する者、あるいは教えを説く者となることはないということである。

舍利弗よ。しかし、そういう声聞たちも、他の如来・勝れた人・正しくあますところなくとつた人たちのもとで、このような仏陀の法について、疑いを持たぬ者となるであらう。

舍利弗よ。

われ・釈迦牟尼仏を、信頼するがよい。信じるがよい。まかせるがよい。

如来・仏たちは、虚言は言わぬ。

舍利弗よ。

この仏陀の乗りものこそ、これこそが唯一つの乗りものなのである」

さて、そして、お釈迦さまは、このような意味をば、より一層明らかにせんと、そのとき、次のとき詩を、詩われるのでありました。

増上慢に堕ちた

出家の男たち

出家の女たち

在家の男たち

在家の女たち

われ・釈迦牟尼仏の言葉に

信を置かぬ者たち

その数は

五千を超えた

間違つたことを

身につけてしまつた

彼ら 五千の比丘たちは

その間違いに

気づかぬままに

もろもろの間違いを

そのままに

思慮の足らぬ者たちは

足音高く

立ち去つた

彼らを

この集まりの滓と知り

世の主

われ・釈迦牟尼仏が

その場を去らせた

この法が

聞けるほどの

そのような善根が

彼らには

無い

われ・釈迦牟尼仏の

集まりは

清らかな汚れなきものとなつた

粉殻は

一掃された

枝葉は

すべて取り除かれた

この集まりは

純粹さにおいて

確かなものとなつた

皆一心合掌 欲聽受佛語
我等千二百 及餘求佛者
願為此衆故 唯垂分別說
是等聞此法 則生大歡喜
爾時世尊告舍利弗。汝已殷勤三請。豈得不說。汝今諦聽。善思念之。吾當爲汝分別解說。此語時。會中有比丘比丘尼優婆塞優婆夷五千人等。即從座起。禮佛而退。所以者何。此輩罪根深重。及增上慢。未得謂得。未證謂證。有如此失。是以不住。世尊默然而不制止。
爾時佛告舍利弗。我今此衆無復枝葉。純有眞實。舍利弗。如是增上慢人。退亦佳矣。汝今善聽。當爲汝說。舍利弗言。唯然世尊。願樂欲聞。佛告舍利弗。如是妙法。諸佛如來時乃說之。如優曇鉢華。時一現耳。舍利弗。汝等當信佛之所說言不虛妄。舍利弗。諸佛隨宜說法。意趣難解。所以者何。我以無數方便種種因緣譬喻。言辭演說諸法。是法非思量分別之所能解。唯有諸佛。乃能知之。所以者何。諸佛世尊。唯以一大事因緣故出現於世。舍利弗。云何名諸佛世尊。唯以一大事因緣故出現於世。諸佛世尊。欲令衆生開佛知見。使得清淨。故出現於世。欲示衆生佛之知見。故出現於世。欲令衆生悟佛知見。故出現於世。欲令衆生入佛知見道。故出現於世。舍利弗。是爲諸佛告舍利弗。諸佛如來。但教化菩薩諸有

所作常爲一事。唯以佛之知見。示悟衆生。舍利弗。如來但以「一佛乘」故爲衆生說法。無有餘乘。若二若三。舍利弗。一切十方諸佛法亦如是。舍利弗。過去諸佛。以無量無數方便種種因緣譬喻言辭。而爲衆生演說諸法。是法皆爲「一佛乘」故。是諸衆生從諸佛聞法。究竟皆得「一切種智」。舍利弗。未來諸佛當出於世。亦以無量無數方便種種因緣譬喻言辭。而爲衆生演說諸法。是法皆爲「一佛乘」故。是諸衆生從佛聞法。究竟皆得「一切種智」。舍利弗。是諸佛但教化菩薩。欲以佛之知見。示衆生故。欲以佛之知見。悟衆生故。欲令衆生入佛之知見。故。舍利弗。我今亦復如是。知諸衆生有種種欲深心所著。隨其本性。以種種因緣譬喻言辭方便。力而爲說法。舍利弗。如此皆爲得「一佛乘」。一切種智。舍利弗。十方世界中尚無二乘。何況有三。舍利弗。諸佛出於五濁惡世。所謂劫濁煩惱濁衆生濁見濁命濁。如是舍利弗。劫濁亂時。衆生垢重。慳貪嫉妬。成就諸不善根。故。諸佛以方便力。於一佛乘分別說三。舍利弗。若我弟子。自謂阿羅漢。辟支佛者。不聞不知。諸佛如來但教化菩薩諸事。此非佛弟子。非阿羅漢。非辟支佛。又舍

利弗。是諸比丘比丘尼。自謂已得阿羅漢。是最後身究竟涅槃。便不復志求阿耨多羅三藐三菩提。當知此輩皆是增上慢人。所以者何。若有比丘實得阿羅漢。若不信此法。無有是處。除佛滅度後現前無佛。所以者何。佛滅度後。如是等經。受持讀誦解義者。是人難得。若遇餘佛。於此法中。便得決了。舍利弗。汝等當一心信解。受持佛語。諸佛如來言無虛妄。無有餘乘。唯一佛乘。爾時世尊。欲重宣此義。而說偈言
比丘比丘尼 有懷增上慢
優婆塞我慢 優婆夷不信
如是四衆等 其數有五千
不自見其過 於戒有缺漏
護惜其瑕疵 是小智已出
衆中之糟糠 佛威德故去
斯人劣福德 不堪受是法
此衆無枝葉 唯有諸眞實
舍利弗善聽 諸佛所得法
無量方便力 而爲衆生說
衆生心所念 種種所行道
若干諸欲性 先世善惡業
佛悉知是已 以諸緣譬喻
言辭方便力 令一切歡喜
或說修多羅 伽陀及本事
亦說未曾有 亦說於因緣
譬喻并祇夜 優波提舍經
鈍根樂小法 貪著於生死
於諸無量佛 不行深妙道

①利二離 ②隨二隨 ③妄一空 ④慧二德 ⑤已二後 ⑥億種一億 ⑦頗梨二玻璃 ⑧車渠二磲 ⑨馬腦二瑪瑙 ⑩校二紋 ⑪檀二蜜 ⑫磚瓦泥二瓦 ⑬石二鈎 ⑭泥二 ⑮蘇陀 ⑯Gāthā ⑰本事 Itivṛttaka ⑱本生 Jātaka ⑲未曾有 Adbhuta ⑳因緣 Nidāna ㉑譬喻 Aupamyā ㉒Geya ㉓Upadeśa ㉔波二婆

衆苦所惱亂 爲是說涅槃
我說是方便 令得入佛慧
未曾說汝等 當得成佛道
所以未曾說 說時未至故
今正是其時 決定說大乘
我此九部法 隨順衆生說
入大乘爲本 以故說是經
有佛子心淨 柔軟亦利根
無量諸佛所 而行深妙道
爲此諸佛子 說是大乘經
我記如是人 來世成佛道
以深心念佛 修持淨戒故
此等聞得佛 大喜充遍身
佛知彼心行 故爲說大乘
聲聞若菩薩 聞我所說法
乃至於一偈 皆成佛無疑
十方佛土中 唯有一乘法
無二亦無三 除佛方便說
但以假名字 引導於衆生
說佛智慧故 諸佛出於世
唯此一事實 餘二則非眞
終不以小乘 濟度於衆生
佛自住大乘 如其所得法
定慧莊嚴 大乘平等法
自證無上道 乃至於一人
若以小乘法 此事爲不可
我則墮慳貪 如來不欺誑
若人信歸佛 斷諸法中惡
亦無貪嫉意

故佛於十方 而獨無所畏
我以相嚴身 光明照世間
無量衆所尊 爲說實相印
舍利弗當知 我本立誓願
欲令一切衆 如我等無異
如我昔所願 今者已滿足
化一切衆生 皆令入佛道
若我遇衆生 盡教以佛道
無智者錯亂 迷惑不受教
我知此衆生 未曾修善本
堅著於五欲 癡愛故生惱
以諸欲因緣 墮墮三惡道
輪迴六趣中 備受諸苦毒
受胎之微形 世世常增長
薄德少福人 衆苦所逼迫
入邪見稠林 若有若無等
依止此諸見 具足六十二
深著虛妄法 堅受不可捨
我慢自矜高 諂曲心不實
於千萬億劫 不聞佛名字
亦不聞正法 如是入難度
是故舍利弗 我爲設方便
說諸盡苦道 示之以涅槃
我雖說涅槃 是亦非眞滅
諸法從本來 常自寂滅相
佛子行道已 來世得作佛
我有方便力 開示三乘法
一切諸世尊 皆說一乘道
今此諸大衆 皆應除疑惑

諸佛語無異 唯一無二乘
過去無數劫 無量滅度佛
百千萬億種 其數不可量
如是諸世尊 種種緣譬喻
無數方便力 演說諸法相
是諸世尊等 皆說一乘法
化無量衆生 令入於佛道
又諸大聖主 知一切世間
天人群生類 深心之所欲
更以異方便 助顯第一義
若有衆生類 值諸過去佛
若聞法布施 或持戒忍辱
精進禪智等 種種修福慧
如是諸人等 皆已成佛道
如是諸衆生 若人善軟心
諸佛滅度已 皆已成佛道
起萬億種塔 供養舍利者
車渠與馬腦 金銀及頗梨
清淨廣嚴飾 莊嚴校諸塔
或有起石廟 栴檀及沈水
木柱并餘材 積土成佛廟
若於曠野中 聚沙爲佛塔
乃至童子戲 皆已成佛道
如是諸人等 建立諸形像
刻彫成衆相 皆已成佛道
或以七寶成 鑄石赤白銅
白鐵及鉛錫 鐵木及與泥

①利二離 ②隨二隨 ③妄一空 ④慧二德 ⑤已二後 ⑥億種一億 ⑦頗梨二玻璃 ⑧車渠二磲 ⑨馬腦二瑪瑙 ⑩校二紋 ⑪檀二蜜 ⑫磚瓦泥二瓦 ⑬石二鈎 ⑭泥二 ⑮蘇陀 ⑯Gāthā ⑰本事 Itivṛttaka ⑱本生 Jātaka ⑲未曾有 Adbhuta ⑳因緣 Nidāna ㉑譬喻 Aupamyā ㉒Geya ㉓Upadeśa ㉔波二婆

或以膠漆布 嚴飾作佛像 如是諸人等 皆已成佛道 彩畫作佛像 百福莊嚴相 自作若使人 皆已成佛道 乃至童子戲 若草木及筆 或以指爪甲 而畫作佛像 如是諸人等 漸漸積功德 具足大悲心 皆已成佛道 但化諸菩薩 度脫無量衆 若人於塔廟 寶像及畫像 以華香幡蓋 敬心而供養 若使人作樂 擊鼓吹角貝 簫笛琴箏篪 琵琶銅鈸 如是衆妙音 盡持以供養 或以歡喜心 歌頌頌佛德 乃至一小音 皆已成佛道 若人散亂心 漸見無數佛 供養於畫像 或復但合掌 乃至舉一手 或復小低頭 以此供養像 漸見無量佛 自成無上道 如薪盡火滅 入無餘涅槃 如於塔廟中 若人散亂心 皆已成佛道 一稱南無佛 皆已成佛道 於諸過去佛 在世或滅度 若有聞是法 其數無有量 未來諸世尊 亦方便說法 是諸如來等

一切諸如來 以無量方便 度脫諸衆生 入佛無漏智 若有聞法者 無一不成佛 諸佛本誓願 我所行佛道 普欲令衆生 亦同得此道 未來世諸佛 雖說百千億 無數諸法門 其實爲一乘 諸佛兩足尊 知法常無性 佛種從緣起 是故說一乘 是法住法位 世間相常住 於道場知已 導師方便說 天人所供養 現在十方佛 其數如恒沙 出現於世間 安隱衆生故 亦說如是法 知第一寂滅 以方便力故 雖示種種道 其實爲佛乘 知衆生諸行 深心之所念 過去所習業 欲性精進力 及諸根利鈍 以種種因緣 譬喻亦言辭 隨應方便說 今我亦如是 安隱衆生故 宣示於佛道 我以種種法 知衆生性欲 方便說諸法 皆令得歡喜 舍利弗當知 我以佛眼觀 見六道衆生 貧窮無福慧 入生死嶮道 相續苦不斷 深著於五欲 如犍牛愛尾 以貪愛自蔽 盲瞋無所見

不求大勢佛 及與斷苦法 深入諸邪見 以苦欲捨苦 爲是衆生故 而起大悲心 我始坐道場 觀樹亦經行 於三七日中 思惟如是事 我所得智慧 微妙最第一 衆生諸根鈍 著樂癡所盲 如斯之等類 云何而可度 爾時諸梵王 及諸天帝釋 護世四天王 及大自在天 并餘諸天衆 眷屬百千萬 恭敬合掌禮 請我轉法輪 我即自思惟 若但讚佛乘 衆生沒在苦 不能信是法 破法不信故 墜於三惡道 我寧不說法 疾入於涅槃 尋念過去佛 亦應說三乘 我今所得道 十方佛皆現 作是思惟時 善哉釋迦文 梵音慰喻我 得是無上法 第一之導師 而用方便力 隨諸一切佛 最妙第一法 我等亦皆得 分別說三乘 爲諸衆生類 不自信作佛 少智樂小法 分別說諸果 是故以方便 但爲教菩薩 雖復說三乘 我聞聖師子 舍利弗當知 我聞聖師子 深淨微妙音 喜稱南無佛

①膠一獸 ②彩一絲 ③貝一貝 ④鈸一鈸 ⑤盡一盡 ⑥頌一頌 ⑦或一若 ⑧在世一現在 ⑨度一後 ⑩今我二我今 ⑪嶮一險 ⑫犍一犍 ⑬瞋一瞋 ⑭喜稱南無佛二稱南無諸佛

復作如是念 我出濁惡世 如諸佛所說 我亦隨順行 思惟是事已 即趣波羅奈 諸法寂滅相 不可以言宣 以方便力故 爲五比丘說 是名轉法輪 便有涅槃音 及以阿羅漢 法僧差別名 從久遠劫來 讚示涅槃法 生死苦永盡 我常如是說 舍利弗當知 我見佛子等 志求佛道者 無量千萬億 咸以恭敬心 皆來至佛所 會從諸佛聞 方便所說法 我即作是念 如來所以出 爲說佛慧故 今正是其時 舍利弗當知 鈍根小智人 著相憍慢者 不能信是法 今我喜無畏 於諸菩薩中 正捨方便 但說無上道 菩薩聞是法 疑網皆已除 千二百羅漢 悉亦當作佛 如三世諸佛 說法之儀式 我今亦如是 說無分別法 諸佛興出世 懸遠值遇難 正使出于世 說是法復難 無量無數劫 聞是法亦難 能聽是法者 斯人亦復難 譬如優曇花 一切皆愛樂 天人所希有 時時乃一出

聞法歡喜讚 則爲已供養 是人甚希有 汝等勿有疑 普告諸大衆 教化諸菩薩 汝等舍利弗 當知是妙法 以五濁惡世 如是等衆生 當來世惡人 迷惑不信受 有慚愧清淨 當爲如是等 舍利弗當知 以萬億方便 其不習學者 汝等既已知 隨宜方便事 心生大歡喜 自當當作佛 爾時舍利弗踊躍歡喜 即起合掌瞻仰尊顏

而白佛言 今從世尊聞此法音 心懷勇躍 得未曾有 所以者何 我昔從佛聞如是法 見諸菩薩授記作佛 而我等不豫 斯事甚自感傷 失於如來無量知見 世尊我等同入法性 云何如來以小乘法而見濟度 是我等答非世尊也 所以者何 若我等待說所因成就阿耨多羅三藐三菩提者 必以大乘而得度脫 然我等不解方便 隨宜所說 初聞佛法 遇便信受 思惟取證 世尊 我從昔來終日竟夜 每自剋責 而今從佛聞所未聞 未曾有法 斷諸疑悔 身意泰然 快得安隱 今日乃知真是佛子 從佛口生 從法化生 得佛法分 爾時舍利弗欲重宣此義 而說偈言 我聞是法音 得所未曾有 心懷大歡喜 疑網皆已除 昔來蒙佛教 不捨於大乘 佛音甚希有 能除衆生惱 我已得漏盡 聞亦除憂惱 我處於山谷 或在樹林下 若坐若經行 常思惟是事 嗚呼深自責 云何而自欺 我等亦佛子 同入無漏法 不能於未來 演說無上道 金色三十二 十力諸解脫 同共一法中 而不得此事 八十種妙好 十八不共法 如是等功德 而我皆已失

①Vārāṇasī ②示二是我 ③妙法...第一 ④一十(垂拱四年六月 日信女楊阿僧與人受持)十六字 ⑤3. Aupamyā; (妙法蓮華經)十譬 ⑥勇二踊 ⑦授二受 ⑧像二預 ⑨常二嘗 ⑩是二然 ⑪樹林二林樹 ⑫我